

基本施策 4 1 総合的な福祉の推進

- ・成果指標に対する実績としては、昨年度と比較すると若干下降気味ではあるが、地域で支え合う環境を整えるための骨格となる施策であるので、着実に推進されることを望む。
- ・施策を推進するために実施している事業は、人口増を前提にしたものが多く、現在、人口減少社会に突入しているなかでは、それらに対応した事業を取り組まなければならないと考える。
- ・行政主導型で実施することは困難な時代になってきている。そのためにも、DX化、官民連携など、これまで行政に関与していない団体等のリソースを活用していく仕組みを作らなければ、持続可能な事業展開はできないと考える。早急に対応していただくようお願いする。
- ・単位施策「地域福祉の充実」に関しては、民生委員・児童委員年間活動日数が指標となっているが、特に民生委員は地域によって活動に差が生じており負担になってきている。また、民生委員の高齢化も課題となっており、『なり手不足』に拍車がかかることが気がかりではないか。民生委員に委ねすぎることも原因と考えられるので、早急な対応を検討いただきたい。
- ・単位施策「高齢者の自立支援の充実」に関しては、施策が目指す姿として「高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられるよう各種サービスを切れ目なく一体的に提供できる地域包括ケアシステムの構築を図ること」とされている。
- ・介護保険制度は社会福祉のなかでも歴史が長い制度であり、非常に充実したサービスとなっている。しかし、支援が手厚く用意されていることで、かつて見られた地域での支え合いを希薄にしているように思う。高齢者が地域で安心して暮らしていくためにも、地域の団体等に任せるような仕組みが構築されれば、自然と地域包括システムの深化、推進を図れると考えるので、ぜひ検討をお願いする。

基本施策 4 2 子育て支援の推進

- ・子育て支援に関する本市の取組は、とても充実しており非常に評価する。市民ニーズを的確に把握され、必要な事業を実施されていると思う。一方では、子育て支援に関する情報等が必要な人に届いていない現状もあると思う。様々な機会を捉え、情報発信に努められたい。
- ・単位施策「妊娠出産・子育て支援の充実」に関しては、熱意をもって事業を展開していただいている、特にプレパパ教室については、今の親世代の状況を把握され、ダイレクトに刺さる事業を実施されている。今後は、結婚・子育てなど自分の将来設計を考える機会につながるよう、中高生を対象とした教室の実施を検討していただきたい。
- ・単位施策「子育て環境の充実」に関しては、掲げられた指標の目標をほぼ達成しており、評価する。

学童保育については、人口減少、少子化など社会環境が大きく変化しているなかで、利用者が増加傾向にあり、待機者も出ている状況との説明があった。それに合わせ、新たな施設を整備するのではなく、将来を見据え、学校の空き教室を利用できるよう、教育現場と

の調整をお願いしたい。

基本施策 4.3 医療体制の充実

- ・成果指標である「人口 10 万人当たりの医師数」は現状維持されており、地域医療に貢献されていると評価する。目標達成のためには、医師数を増やさなければならず、それには関係機関との連携は必須であると考える。
- ・単位施策「救急医療体制の充実」に関しては、施策が目指す姿として「救急患者の円滑・適切な受入れに向け、急患センターの充実強化、休日歯科診療の実施、休日夜間救急における病院群輪番制病院の確保を図るとともに、救急医療機関の適正利用について市民への周知等を図ること」とされている。
- ・急患センターにおいては、感染症対策を講じながら診療を行うため、苦労が絶えないことは理解できる。しかし、受診するためには事前に電話連絡をしなければならず、何度も電話をしたがつながらなかつた状況があったということだった。このような状況を改善するためにも、今後の救急医療体制については柔軟に対応が必要だと思う。

基本施策 4.4 健康づくりの充実

- ・成果指標である「標準化死亡比」は目標に達しているが、全国平均の 100 より高く、特に脳血管疾患が高い状況が続いている。内部評価の課題にあるとおり、基礎疾患対策について重点的に取り組む必要があると考える。
- ・単位施策「心と身体の健康づくり支援」に関しては、成果指標である特定健診受診率が目標値に未達であり、昨年度より低くなっている。これは、健康であるがゆえに健診を受けないのではないか。将来、起こりうる状態を周知徹底することで、受診率向上につながると考える。
- ・高齢者に対するフレイルの啓発についても、若い世代の人たちにフレイル予防を周知し、早い時期に定着させる取組を実施することで、基本施策の目指す姿となると考える。
- ・最後に、基本計画 4 グループにおいては、「入り口を手前に！」というキャッチフレーズを提言する。「結婚支援」「子育て支援」「健康づくりの充実」など、課題を目の前にして事業を実施するのではなく、それよりも早い時期、いわゆる手前の段階で周知や啓発を図ることにより、自然に促していく仕組みを考えていきたい。ぜひ、すべての事業に関し「入り口を手前に！」という意識で取り組んでいただきたい。